

地域密着型サービスの自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自に目標を掲げ、目に付く場所へ掲示し意識の向上に努めている。事業所全体で理念を掲げており、朝礼等で復唱している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月ミーティングを行い、日々の関りについて確認・振り返りを実施している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方へ事業所の広報誌やホーム便りを発行しており、地域で暮らす事の大切さ、理念や取り組みを知ってもらえよう努力している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所へ散歩に出掛けた時など挨拶は交わしているが、気軽にホームへ来て頂けるような付き合いは出来ていない。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域ボランティアの受け入れや、イベントへ参加し交流を行っている。	○	近所のゴミ拾いをしたり、積極的に地域へ出向いて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>他の事業所と協力して地域のサロンや老人クラブに出向き、認知症啓発活動を行って認知症の理解を広めたり相談に応じている。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員ミーティングで自己評価について話し合い、意義や目的を理解している。改善策を話し合う材料として役立っている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>ご家族や民生委員から意見や希望が頂くと、その意見を職員間で検討しサービス向上に活かしている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護保険に関する相談や質問をその都度行う等し、情報交換に心掛けている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会に参加し、制度の理解や知識を深めている。必要な人には説明を行い、話し合いに応じている。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法についての勉強会に参加しており、知識を得ている。当事業所内での虐待はない。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に十分説明し、理解を頂いている。不安・疑問点の相談を受けた時はその都度説明していく。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から意見や不満などはないか入居者に尋ね、相談を受けた時は職員ミーティング等で話し合いを行っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時は入居者の状況報告を徹底している。また緊急を要する場合など状況に応じてはその都度電話連絡行っている。</p>	<p>○</p> <p>野外に出た時や日中の様子の写真やビデオを見てもらっているが、面会時にもっとじっくりと見ていただき、利用者の暮らしぶりをより深く理解していただくようにしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。家族アンケートを実施し第三者による家族アンケートも実施されたが、これまで苦情処理件数はゼロである。苦情をいただいた時はサービス改善に繋がるよう検討していく。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議・職員ミーティング等で話し合いの場を設け、意見を出し合っている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じて職員の勤務配置を変更・調整行うなど、職員全員で協力出来ている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動により職員が代わる場合があるが、遊びに来れる時は会いにきてもらうなどの連携がとれており、ダメージを最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修会へ参加できる体制を整えており、法人内でも勉強会を開催している。	○	法人外の研修に積極的に参加計画していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会参加や地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、情報交換しながら連携を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	福利厚生委員会が設けてあり、職員のレクリエーションや食事会・茶話会を実施している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	様々な部門の共感賞推薦に投票する機会を設け、職員の努力や実績などを評価し、表彰している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面接を実施している。本人自身から話しを得るのが難しい時は家族や、担当の介護支援専門員から話をきいて、本人が安心できるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・面会に見えた時は、話を十分に聞く時間を設けており、ホームで出来るサービス等を十分に伝えている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる事をしっかり聞き取り、ケースによっては他のサービスを紹介するなど相談に応じている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームを見学してもらい、一緒にお茶を飲みながら雰囲気や環境を知ってもらっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は時には子供のように甘え、時には親のように入居者と関り、状況に応じた対応をする事でお互いの関係を築いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や様々な場面で協力を要請。何事も職員サイドで決めるのではなく、一緒に相談にのっていただき、解決策を導き出している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、本人とご家族がゆっくりくつろぎながら会話ができるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや食事、親戚の家を訪ねたりと、行楽地へのドライブ等を家族と一緒に外出される事を積極的に勧めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	他入居者のお世話をする事で生きがいに繋がる方や、誰かが寄り添う事で安心される方など、1人1人に応じた関りを入居者・職員一緒に支えあっている。入居者同士の関りに職員が介入しすぎないように、見守りや状況に応じた判断をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した後も御家族がお見えになったり、以前から頂いていた手作りの作品を持って見えたりと関係が継続している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で入居者の希望を聞いており、困難なケースは家族に意向を確認している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時に情報を得よう努力しているが、把握できなかった事は面会時に確認している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中は自分の好きなように過ごして頂き、作業を行う時は個人の能力に合わせた関りを職員間で報告・連絡しあっている。	○ 全員参加での行事だけでなく、一人ひとりに合わせた個別対応をもっと増やしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ドクター・看護師・PT・OT・栄養士などのアドバイスを受けながら、本人・家族の希望を一番に介護計画に盛り込んでいる。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、職員全員でモニタリングを実施している。他にも検討すべき事態が生じたときは家族・主治医・看護師・PT・栄養士等に相談しアドバイスもらいながら見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で申し送りを行い、連絡ノートを活用し情報を共有している。その日の個別記録を確認した上で仕事に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	子供がいない入居者や面会が少ない入居者に対して、御家族に確認・連絡をとり、買い物やドライブを職員と行う等の個別に応じた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月に1回は生け花教室のボランティアに来てもらい、季節の花や会話を楽しむ等の気分転換の支援を行っている。	○	老人クラブやお話ボランティアとの時間が気軽にもてるよう機会を作っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅担当者会議や地域ケア会議等で情報交換し、また併設施設の介護支援専門員などに相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、情報交換・相談をさせてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に継続して受診してもらっており、体調変化や気になる事があれば直接、主治医に連絡をとって情報・アドバイスを頂いている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院に認知症専門医が勤務している。電話だけでも指示や助言がもらえるなど相談に応じてもらえる関係が築いてある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制により契約している看護師にバイタルチェック行ってもらい、日々気になる症状があれば報告・連絡・相談をし、健康管理に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はお見舞いを兼ね、病院側と情報交換を行い、状態把握に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応について契約時に当事業所の方針を説明し、理解を頂いている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りに関する勉強会を開催し、看取りの重要性を理解している。重度化した場合は併設施設との協力により、変化に合わせた対応が出来るようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者の身体状況の変化によって、併設施設へ生活の場が変わる際は職員間の情報交換を行っている。また時にホームへ遊びにきて頂くなど、いつでも交流できる雰囲気作りを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修やケアサービス向上委員会による職員教育を実施。プライベートな場所での礼儀・現実を否定しない対応を職員全員で努力している。言葉使いや呼び方に関してはご家族へアンケート調査し、ニックネームで呼ぶばせてもらう事の理解を得ている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人1人の理解力・能力にそった声掛け・説明をする事で、自己決定や希望を引き出している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分でどう過ごせば良いのか分からない方には前もって説明はするが、行事に合わせ過ごしてもらう事がある。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整髪はボランティアでみえるカットマンや理髪師のどちらがいいか本人の希望に合わせて利用している。整容に関しては自分の好みの服を着てもらい、季節に応じた手直し等を支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査アンケートを実施し、好みの物を把握し献立に生かしている。食事は盛り付け配膳から下膳・食器洗いに至るまで、職員と共にやっている。	○	畑で出来た野菜を使って調理する場を増やし、自分達で作る事の楽しさを感じてもらいたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事のメニューによってお酒を好まれる方には用意するなど、個人の希望に添った支援をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人1人の排泄パターンを把握した上でおむつ着用はせず、声掛け・誘導を実施している。時間帯に応じてパットの種類を使い分け、排泄失敗が起ころぬよう工夫している。排泄チェック表を作成し、排便間隔の把握に役立てている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っている。時に行事と重なり、入浴時間が変更・中止となる事があるが、気の合う入居者同士と一緒に入浴できるよう配慮し、歌を唄ったりして雰囲気作りを行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室は温度調整をし快適に休めるようセッティングしている。休む前には排泄誘導・パジャマ更衣を援助しメリハリのある生活を提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常では入居者それぞれが得意とする能力を理解し、状況に応じて発揮できるよう支援し生きがいにつなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	野外レクリエーションで外出した際に買い物の場を設け、実際に支払い精算をしてもらっている。排泄用品が必要な方は能力に応じて、支払いの代行を職員が行ったり、職員付き添いの元、支払いをもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩がしたい方、運動がしたい方など、その時の希望に合わせて職員付き添いで対応しているが、気候や天気により実施出来ない時もある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月1回は野外レクリエーションを計画・実施している。行きたい場所、食べたい物などの希望を聞き家族にも参加を呼びかけ、一緒に過ごせる機会を作っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しており、いつでも電話ができるようにしているが、希望があれば職員が代行する等対応している。	○	なかなか面会に来られないご家族宛に、絵葉書やビデオレターを送る機会を増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	多い方では週に1回、少ない方でも月に1回は面会に来られ、それぞれ好きな場所で一緒にお茶を飲みながら過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会に参加し、職員全員が理解している為、現在、身体拘束は行われていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけておらず、自由に出入り出来るようにしている。徘徊注意者は他の施設に顔写真を配布し、協力を依頼している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は自由に過ごしてもらう中で、所在確認チェック表に沿いこまめに確認している。夜間は定期的に巡視を行い、所在確認・様子観察を実施している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の持ち物で爪切りやハサミがあっても、管理が出来るかの見極めをし、難しい方は事務所で預かっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居時の情報や日々の状態を観察し、見守り・必要に応じて援助を行っている。年に2回は避難訓練・徘徊者捜索訓練を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的心肺蘇生法やAEDの勉強会を実施しており、リスクマネジメント委員会を設置して検討会も随時行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡体制を整え、災害等に備えて併施設と合同で避難訓練を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時や面会時に入居者が出来る事は自分で行って頂く関りを家族に説明すると共に、発生するリスクについての理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行っている。また、表情や食欲など日常の変化に気付いた際は職員に周知を呼びかけ、見守り・観察を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時観察や、病院受診後の申し送りを密に行い、変化の見落としが無いようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主治医に相談したり、こまめな水分補給や適度な運動を取り入れ、排便困難の解消に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが必要な入居者においては、毎食後 誘導声掛けをし、一部介助行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により栄養バランスは確保されており、定期的に水分補給の時間を設けて水分量の確保に努めている。	○	一人1人の食事形態に合わせ、お茶ゼリーや缶詰を用意したり、刻み食で対応するなど摂取面の工夫をしている。より細かく支援をしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ペーパータオルを設置している。また日中の作業後の手洗いは毎回行い、外から帰ってきた時や1日1度はお茶でのうがいを実施している。また、毎月1回 感染対策委員会を設置しており、留意事項は申し送りを実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は使用後に洗浄し、必ず食器乾燥機にて乾かしている。また定期的に消毒を実施し衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	鍵をかけることなく、誰もが出入り出来るようにしている。また季節の花を外周や玄関に飾り、温かい雰囲気作りに心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花を飾り、館内は外からの光が入る為明るい。光が強い時はカーテンを使用し光の差し込み加減を調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士を近くの席にしたり、ソファを設置し思い思いにゆっくりと過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	馴染みのある壁掛けや飾りなど、本人が好まれる 物を居室内に飾ってもらっている。また、家族に も伝え持ってきてもらう等行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	掃除中は換気に努め、室内の温度や季節に応じた 空調管理行っている。また、入居者の声に応じ ても気温調節行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下や通路にはてすりが設置され、館内はバリア フリーとなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	声掛けで出来る方には見守りをし、ヒントを出せ ば分かる方にはきっかけを与えるなど、一人1人 の理解力に合わせた援助を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	中庭の花壇には、季節の花や野菜を植えて収穫を 楽しんだり、気候が良い日には散歩コースとして 活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所ではより家庭的な雰囲気での支援ができる様、御家族の理解の元、入居者をニックネームで呼んだり宮崎弁を使って会話をしています。馴染みのある話し方や呼び方をすることで、安心できる環境をつくっています。

また、畑で季節の野菜を作る菜園療法も取り入れ、種まきから収穫までの作業を行い、収穫した野菜を調理し食する。経験がある入居者が特にいきいきと作業されています。

転倒の危険性がある入居者もおられますが、本人の出来る事は自分で出来るように支援し、一人ひとりの状態に合わせた自立支援を心掛けています。

運営推進会議を交え、夏には夕涼み会。冬には忘年交流会を行い家族や民生委員、区長さんに主治医のドクターをお呼びして意見・情報交換を行っています。

日中の時間の決まりにとらわれず、その場その場で臨機応変に対応ができており、問題がある時は職員皆で検討する等協力体制が整っている、笑い声の多いホームです。